第 10 回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会

日時：令和７年７月 29 日（火）
午後５時 30 分～７時
会場：塩尻総合文化センター　１階講堂

次 第

1. 開　会
2. 挨　拶
3. 新構成員自己紹介
4. 座長選出
5. 会議事項
   (1)「第９回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会」まとめ
   (2) 学びのイメージについて
   (3) 統合方法について
   (4) 想定募集学級数・開校年度について
   (5) その他
6. 諸連絡
   次回の予定
   【日時】　調整中
   【場所】　調整中
7. 閉　会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第１　県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第 138 条の４第３項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第２　懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

（１）学校像、教育方針等に関すること

（２）校地・施設・設備等に関すること

（３）管理運営等に関すること

（４）教育内容等に関すること

（５）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

（構成員）

第３　懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、ＰＴＡ、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

２　会議に座長を置く。

（開催期間）

第４　会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和２年 10 月 26 日から施行する。

第10回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

（敬称略）

	区分	氏名（座長〇）	所属等	新構成員
1	自治体	石坂　健一	塩尻市　副市長	
2		〇佐倉　俊	塩尻市教育委員会　教育長	〇
3		大池　昌弘	山形村教育委員会　教育長	
4		百瀬　司郎	朝日村教育委員会　教育長	
5		太田　幸一	塩尻市産業振興事業部先端産業振興室　室長	
6	産業界	小松　稔	塩尻商工会議所　会頭	
7		林　　修一	塩尻市観光協会　会長	
8	学識経験者	渡邉　修	信州大学農学部農学生命科学科　准教授	
9		小林　敏一	エプソン情報科学専門学校　学校長	
10	地域	中島　紀彦	セイコーエプソン株式会社Ｐ総務部　部長	
11		松本　宏隆	セイコーエプソン株式会社Ｐ事業戦略推進　部長	
12		横山　暁一	ＮＰＯ法人ＭＥＧＵＲＵ　代表理事	
13		斎藤　政一郎	松本地域振興局　局長	
14	同窓会	赤羽　誠治	塩尻志学館高等学校同窓会　会長	
15		霜田　美奈	田川高等学校同窓会　会長	
16	ＰＴＡ	桃井　則美	塩尻志学館高等学校ＰＴＡ　会長	
17		堀内　みどり	田川高等学校ＰＴＡ　会長	〇
18		北沢　寿明	東筑摩塩尻ＰＴＡ連合会　顧問	
19	小中学校関係者	吉越　秀之	東筑摩塩尻校長会　代表　（桔梗小学校　校長）	
20		黒沢　幸喜	東筑摩塩尻校長会　代表　（丘中学校　校長）	
21		永田　寛尚	松本養護学校　校長	
22	再編対象校	熊谷　のい	塩尻志学館高等学校　生徒代表	
23		中舎　水鏡莉	塩尻志学館高等学校　生徒代表	
24		淺川　夢羅	塩尻志学館高等学校　生徒代表	
25		小岩井　一	田川高等学校　生徒代表	
26		鈴木　脩也	田川高等学校　生徒代表	
27		池田　　葵	田川高等学校　生徒代表	
28		堀内　雅司	塩尻志学館高等学校　校長	
29		今井　直哉	塩尻志学館高等学校　教職員	
30		青木　裕士	田川高等学校　校長	
31		笠原　勇貴	田川高等学校　教職員	

事務局

塩尻志学館高等学校	
木下　博史	教頭・事務局長
今井　直哉	新校準備委員会構成員（長）
寺澤　顕孝	新校準備委員会構成員（副）
高山　直之	進路指導主事

田川高等学校	
内川　源弘	教頭・副事務局長
笠原　勇貴	新校準備委員会構成員（長）
料治　正和	生徒指導主任

長野県教育委員会	
原　多恵子	高校再編推進室 主幹指導主事
荻原　洋平	高校再編推進室 主任指導主事
宮嶋　直美	高校再編推進室 主任指導主事
佐久　浩信	学びの改革支援課 主任指導主事
貝野　宗司	高校再編推進室 主事

「学びのイメージ」　検討手順

学びのイメージ

新しい学校の形

（第10回～）
・設置課程、学科
・活用する校地（第９回）
・学びを実現するための施設
・想定する募集学級数　等

新しい学校の中身

（第４～８回）
・学びの柱
・どんなことができる学校
・特色あるカリキュラム
・魅力づくり

新しい学校が目指す姿

・育てたい生徒像
・目指す学校像
（第４～８回）

共通理解

・懇話会趣旨説明（第１回）
・全国の先行事例 （第2回）
・2校の学び紹介（第3回）
・視察報告（第4回）

第9回　塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

日　時	令和７年（2025 年）５月 13 日（火）　午後５時 40 分から午後７時		
場　所	塩尻総合文化センター　１階講堂		
出　席 **（敬称略、◎座長）**	石坂 健一、◎赤羽 高志、大池 昌弘、渡邉 修、小林 敏一、横山 暁一、草間 英樹（代理）、 赤羽 誠治、霜田 美奈、桃井 則美、菱田 岳士、北沢 寿明、吉越 秀之、黒沢 幸喜、永田 寛尚、 熊谷 のい、中舎 水鏡莉、淺川 夢羅、小岩井 一、鈴木 脩也、池田 葵、 堀内 雅司、今井 直哉、青木 裕士、笠原 勇貴　　以上 25 名		
欠　席 **（敬称略）**	百瀬 司郎、太田 幸一、小松 稔、 林 修一、中島 紀彦、松本 宏隆、以上６名	**傍　聴**	５名　　報道２社
事務局	塩尻志学館高校：木下教頭（事務局長）、今井教諭、寺澤教諭、深澤教諭 田川高校：内川教頭（副事務局長）、笠原教諭、料治教諭 県教育委員会：佐野室長、宮嶋主任指導主事、荻原主任指導主事		
会議事項	(1) 第８回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 校地検討部会報告 (3) 学びのイメージについて (4) 統合方法について		
当日資料	第９回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会資料、校地選定について（案）		

主な内容　（ →：県教委回答 ）

（1）第８回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ　　質問、意見なし

（2）校地検討部会報告（石坂部会長）

塩尻総合学科新校の校地として「塩尻志学館高校の校地を活用する」ことを本部会での結論とする。

【質問・意見】

・この案が最終的に決定事項となるのはいつか。

→再編実施基本計画を教育委員会定例会で決定し、議会同意を得られたときに正式な決定となる。

（3）学びのイメージについて説明（事務局から説明）

① 学びのイメージについて

これまで出されてきたものを整理した。これをベースに更に意見交換をしていく。

【質問・意見】

・「表現を学ぶ」と「感性を学ぶ」の内容が似ているのでまとめてもよい。

・多彩な科目選択とあるが、進路によっては普通科と変わらないので総合学科らしい科目がとれるような工夫がほしい。

・スマート農業、塩尻市・EPSON との連携とあるがどのように連携するのか。

→　近いうちに EPSON との連携企画があるので、ぜひ参加してほしい。

・教科を越えて広がる学びの掛け合わせは、もっと自分たちが将来やりたいことを増やした方がよい。

・地域に開かれた学校について、地域の方が校内に入ってくるような学びの場があった方がよい。

→　要望については今後の検討材料としていく。

② 中高一貫校併設型について（県教委から説明）

・モデル校と同じ併設型の県立中高一貫校については、現行の２校体制を維持することが適切であると考える。

・これらの考え方はすべての県立高校に適用される。

・中高連携キャリア教育は併設型の中高一貫校でなくとも実現できると考える。新校において研究していきたい。

【質問・意見】

・これからの可能性については県教委の皆様とも意見交換をさせていただきたいと思っている。

→　現行の２校体制を維持することは現時点での県教委の見解。

（4）統合方法について（事務局から説明）

年次統合と一斉統合について図を用いて説明。メリット、デメリットがそれぞれにあるが、県としては年次統合が適切ではないかと考えている。

【質問・意見】

・一斉統合により普通科から総合学科に転校となった場合、金銭的な負担は発生するか。　→ 発生しない。

・一斉統合だと人間関係がうまくできるのか不安に思った。

・年次統合では、残された２，３年生は寂しい思いをしてしまうと思うので配慮をしてほしい。

→　統合前から交流行事等を行い配慮していきたい。

・大学はよく組織改変があるが、入学した学生にとっては入った時の名前で出るのが筋ではないかと思う。

・これまでの事例では年次統合と一斉統合どちらが多いのか。

→　今、正確な校数をお答えすることができないが、学校によってさまざまであり、どちらにもメリット、デメリットがある。ただし、生徒の諸活動は保障される。

・年次統合の方法として、１つの校地に複数の学校、学科が存在することは可能か。

→　異なる学校教育の学校が同じ敷地に存在することや、新校として想定されるより多くの学級数が入る施設など、そのようなことをクリアできるかを踏まえて検討していく。

塩尻総合学科新校　学びのイメージ

（第９回懇話会資料）

- 育てたい生徒像
  - ・自分の軸を持ち積極的に創造し、探究しチャレンジする生徒
  - ・豊かな心を持ち他者を尊重できる生徒
  - ・粘り強く学び続け、自分の道を切り開き、世界に羽ばたく生徒
- 目指す学校像
  - ・多様な経験、学び、人との出会いを通して一人一人の可能性を広げられる学校
  - ・地域を学びのフィールドとして地域との共創を目指す学校
  - ・生徒が主人公となり、社会と生徒とともにつくり成長し続ける学校

学びの３本柱　①多彩な選択科目　②地域連携キャリア教育　③ワクワクする学び

具体的な取り組み

① 教科を越えて広がる学びが新たなアイディア・価値を生む

【文理融合】（学際的な学びの系列）
【農業×福祉】（福祉施設、高齢施設との連携、園芸セラピー、アニマルセラピー）
【農業×食×ビジネス】（ワインを使った商品開発、マーケティング）
【体育×福祉】（ユニバーサルスポーツ）
【情報×農業】（スマート農業）ほか

② 「学んでみたい」がここにある（多彩な科目）人生を豊かにする学び

- ・表現を学ぶ　音楽・書道・美術・演劇などを通した総合芸術
- ・言語を学ぶ　フランス語、中国語、ハングルの学びから積極的な国際交流
- ・感性を学ぶ　アート、クラフト、アーティストとの創造活動
- ・IT を活用した学び（情報発信、プログラミング、マルチメディア）
- ・スマート農業、塩尻市・EPSON との連携

③ 地域連携～地域とつながり、地域に開かれた学びの場～

- ・地域連携によるキャリア教育の充実
  ⇒塩尻市共学共創コンソーシアムとの連携、地域課題を学ぶインターンシップ・プロジェクト推進。
- ・小中高連携による探究・学習支援
  ⇒小中学生との合同ゼミ、探究活動の継続、高校生による学習支援。
- ・地域資源・企業との協働による実践的学び
  ⇒農園・福祉活動、ワインバレー参画、地元企業・DX センター等との連携活用

学びを支えるしくみ

① のびやかに学ぶ環境

- ・校外学修や個別探究を支える柔軟な教育課程の整備（校外学修の単位認定、ゆとりある時間割設計）、ICT を活用した多様な学びの推進（遠隔授業配信に対応する ICT 環境の整備）
- ・快適で柔軟に使える学びの空間の整備（生徒交流や地域連携活動にも対応できる施設・設備の充実）

② クラスを越えて出会える活動の機会、活動の場所がある～生徒が主人公「私は私の人生の当事者」～

- ・主体的な学びと成長を支える教育環境の整備（探究的・アクティブな授業、少人数選択授業、ICT を活用した柔軟な学び）
- ・共に学び支え合うコミュニティ形成と生徒主体の学校運営の推進（生徒同士の教え合い、縦割り・異学年交流、サポーターズシステムによる個別支援、生徒会・自治活動の活性化、部活動を通じた探究的・規律的な学び）

③ 地域共創コンソーシアム

学びを選び、塩尻で挑み、未来を拓く総合学科

第 10 回懇話会資料
（ver4.5）

育てたい生徒像

〇自分の軸を持ち積極的に創造し、探究しチャレンジする生徒
〇豊かな心を持ち他者を尊重できる生徒
粘り強く学び続け、自分の道を切り開き、世界に羽ばたく生徒

×

目指す学校像

〇多様な経験、学び、人との出会いを通して一人一人の可能性を広げられる学校
〇地域を学びのフィールドとして地域との共創を目指す学校
〇生徒が主人公となり、社会と生徒とともにつくり成長し続ける学校

学　び　の　３　本　柱

①多彩な選択科目

人生を豊かにする学びがここにある

【表現・感性を学ぶ】
- 音美書・演劇などを通した総合芸術、アーティストとの創造活動

【言語を学ぶ】
- フランス語、中国語、ハングルの学びから始まる国際交流

【ICT 活用を学ぶ】
- 情報発信、プログラミング、マルチメディア

【生活を学ぶ】
- 農業、商業、家庭、福祉などの人生を豊かにする科目

②ワクワクする学び

教科を越えて広がる学びが新しいアイディア・価値を生む

【文📘＋理📊融合】
- 学際的な学びの系列

【農業🌱✖福祉🏥】
- 福祉施設、高齢施設との連携、園芸セラピー、アニマルセラピー

【農業🍇✖食🍷✖ビジネス📈】
- ワイン商品開発、マーケティング

【体育⚽✖福祉♿】
- ユニバーサルスポーツ

【体育⚽✖情報💻】
- e スポーツ

【情報💻✖農業🌾】
- スマート農業　ほか

③地域連携キャリア教育

地域に開かれた学びの場で地域とつながる

【産学民連携】
- 塩尻市共創共学プラットフォームや地元企業・DX センター（Core 塩尻、総合教育センター等）との連携、シオジリ学（地域課題解決型学習）の推進、ワインバレー参画

【小中高連携】
- 小中学生との合同ゼミ、探究活動の継続、高校生による学習支援

【開かれた学び】
- ブドウ収穫体験講座、地元の専門家・農家による公開講座、車座の対話

学　び　を　支　え　る　仕　組　み

のびやかに学ぶ環境

- ❖校外学習や個別探究、ICT を活用した多様な学びを支える柔軟な教育課程の中で、生徒が自ら学びをデザインできるゆとりある時間割を編成する。
- ❖地域交流や地域連携に対応できる快適で柔軟な学びの空間を整備する。

クラスを越えて出会える活動の機会、活動の場所がある～生徒が主人公「私は私の人生の当事者」～

- ❖異学年交流により多様な視点を育み、思いやりや協調性、自ら考え行動する力を育てる。
- ❖仲間と支え合い、失敗からも学び続けられる温かな雰囲気を整備する（職員サポーターズシステム）。

地域の方々との共同開発

新校が生涯学習の出発点

地域共学共創コンソーシアム

各種学校

医療・福祉関係

地元企業・商工会

自治体

研究機関

塩尻総合学科新校の統合方法について（案）

1　統合方法について

○統合方法：年次統合

○理由：一斉統合に伴う転校での学習環境の変化や校名の変更が生徒にとって大きな負担であること、普通科から新校総合学科への転校となり、総合学科高校での原則必履修科目である「産業社会と人間」の履修をどのようにするかといった、教育課程編成上の大きな課題があること、一方、年次統合では「入学した高校を卒業する」という形式であるため、入学時の校名と卒業時の校名が同一であり、生徒にも保護者にも混乱が少ないことから年次統合とする。

2　前回（第９回懇話会）で出されて質問、意見に対する回答、考えられる対応策

・一斉統合により普通科から総合学科に転校となった場合、金銭的な負担は発生するか。→しない。

・一斉統合だと人間関係がうまくできるのか不安に思った。

・年次統合では、残された２，３年生は寂しい思いをしてしまうと思うので配慮をしてほしい。

→統合前から交流行事等を行い配慮していきたい。具体的な動きとして、２校合同の校外交流事業、文化祭での合同企画、部活動合同練習等がある。持続可能な活動を考えていきたい。

・大学はよく組織改変があるが、入学した学生にとっては入学時の名前で出るのが筋ではないか。

・これまでの事例では年次統合と一斉統合どちらが多いのか。

第１期再編での統合方法

年次統合	飯山高校　中野立志館高校　須坂創成高校　木曽青峰高校
一斉統合	佐久平総合技術高校　飯田ＯＩＤＥ長姫高校　大町岳陽高校

第２期再編での統合方法

年次統合	中野総合学科新校（仮称）　佐久新校（仮称）　伊那新校（仮称）
一斉統合	小諸義塾高校（仮称）　須坂新校（仮称）

→統合する学校の事情により異なる。塩尻総合学科新校と同じ総合学科と普通科の統合になる中野総合学科新校は年次統合

・年次統合の方法として、１つの校地に複数の学校、学科が存在することは可能か。

→異なる学校教育の学校が同じ敷地に存在することや、新校として想定されるより多くの学級数が入る施設が必要、場合によっては通学距離が伸びるなど課題が多く困難である。

3　想定される利点と課題

統合方法	利点	課題
年次	・「入学した高校を卒業する」という形式であるため、入学時の校名と卒業時の校名が同一であり、生徒にも保護者にも混乱が少ない ・現状の教育課程を維持できる ・新校の教育課程編成に余裕をもって臨むことができる	・同一校地に２つの校名が存在（校名の併用が必要になる） ・田川高校の校地で学ぶ生徒が開校年度は２学年、翌年度には１学年のみ →生徒会活動、部活動の連携、合同チーム等の検討が必要 ・学校運営に必要な教員の確保
一斉	・開校年時点で統合が完了する→校名の併用が必要ない ・開校年度の転校で田川高校に入学した生徒の生徒会活動や部活動に支障が出ない ・学校運営に必要な教員の確保がしやすい	・開校２年前より両校の募集学級数を新校の学級数にそろえる必要がある ・田川高校に在籍している生徒は普通科から新校総合学科への転校となり、開校２年前から教育課程をそろえる必要がある。また、総合学科高校での原則必履修科目である「産業社会と人間」の履修の扱いなど、教育課程編成上の課題がある。 ・新校へ転校することについて募集段階で生徒・保護者・地域住民に周知を徹底する必要がある。 ・新校校地の施設整備が完了していることが必要である。

⇒いずれの場合にもメリット・デメリットがあるが、一斉統合における多くの課題を考慮すると、年度を追っての統合を行っていくのが適切ではないかと考える。

想定募集学級数・開校年度について(案)

	学校名	新校名（仮）	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
			2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
11	塩尻志学館	塩尻総合学科新校	5	5								(6)	(6)	(6)
	田川		5	4										
当年度高校入学対象者数（前年度末中学校卒業者数）(注1)			3895	3694	3681	3642	3577	3496	3522	3462	3385	3186	3074	
前年増減（▲=減）			0	▲ 201	▲ 13	▲ 39	▲ 65	▲ 81	26	▲ 60	▲ 77	▲ 199	▲ 112	
入学年度の対象学年					中学校3年生	中学校2年生	中学校1年生	小学校6年生	小学校5年生	小学校4年生	小学校3年生	小学校2年生	小学校1年生	
（注1）2025年度学校基本調査による数（旧11通学区）					設計(4年)				工事(6年)					
												開校		竣工

・今後の急速な少子化、施設の整備期間等を考慮し、令和15年度を新校の募集開始（開校）年度とする。
・募集学級数は、旧第11通学区の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には６学級程度が想定される。